

### 3 環境整備

何度言っても、ロッカーや机の中が片付きません。



若手教員

## 子どもの目線から見た安心、安全な居場所づくり

物を片付け、そろえる中で、気持ちが整い、落ち着いて学ぶ環境が生まれます。廊下を静かに歩いたり、ふさわしい声の大きさを話したりすることは、周りの人に対する思いやりや敬意を表します。「きれいにしなさい。」と言うだけではきれいになりません。片付け方の見本が示されているか、片付けなければならない物が多すぎないか、手順が複雑になっていないか、もう一度子どもの目線で考えてみましょう。

### 教室の前面

授業に集中できるよう、必要なものを貼る。

【刺激量の調整】授業中に必要な掲示はカーテン等で目隠しする方法もある。

【時間の構造化】ミニ黒板等を使って一日の流れを示すこともできる。授業の始まりと終わりの時間を時計の針の角度で示すこともできる。

今日の予定  
朝の用意  
朝読書  
朝の会  
1 国語  
2 分休み  
3 音楽 (リコーダー)

カラーUDにも配慮された見えやすいチョークの色で、内容に応じた使い分けを。黒板消しは、いつもきれいに。

管理職



授業を見て回っていると、学習に集中できている教室には必ず環境の工夫があります。よりよい授業をすることはもちろん、先輩の環境整備の工夫はどんどん取り入れてほしいと思います。

### 掲示の極意

掲示は、計画的に考えて貼ります。掲示の仕方は担任の先生の願いや、学級の現状が見えることがあります。破れかかった紙がいつまでも残っていないか、画鋏で四隅をきちんと押さえているかといったところに学級の落ち着き具合が表れます。学校全体にも同じことが言えます。

### 教室の側面・背面

「見て分かり、すぐに動ける」  
仕事の手順と内容の掲示

【ルールの特典化】役割の手順・仕方を具体的に分かりやすく示す。日直や係活動  
給食当番  
掃除当番（ごみ集めの場所をテープで囲む等）



「どこに何を入れればよいか、どの子も見てできる」片付け方

片付ける物の名前を明記する。（手順を示す、番号を付ける、しきりを使う等）  
見本の写真を付けるのも効果的！  
先生の机や周りもきれいに！

学習の足跡、生活の歩み等  
「自分の成長に気付ける」掲示

- ア 行事の写真で、集団としての成長を感じさせる。
- イ 作品にコメントを付け、価値付けをする。
  - ・誤字・脱字はないか確かめる。
  - ・計画的に貼る。
- ウ 目標に向けた取組のがんばりカード



メンターは、

色覚への配慮の仕方として、明度や彩度に差を付ける、色の名前と物の名前を合わせて示す等、分かりやすい指示の仕方や提示資料の作成について助言したり、学級の中で色覚異常があることが周囲に伝わらないよう配慮することを伝えたりします。

また、指導の一貫性を図るために、学校や学年全体で統一する部分と、自分のアイデアを生かした学級独自の取組の工夫ができる部分があり、特に掲示にはそのことが表れることを伝えます。



メンター

## トイレ・靴箱・掃除道具入れ等

- 1 トイレはきれいに使われているか／スリッパはそろっているか  
(トイレットペーパーがないままだったり、流しが汚かったりすると気持ちよく使えないので、放課後や施錠の際に気にかける習慣を付けるとよいでしょう。)
- 2 靴箱の靴はきちんと入っているか  
(朝や放課後、靴箱を確認して整っているか気を付けてみましょう。気持ちの緩みや規律の乱れが表れることがあります。)
- 3 傘立てに名前のない傘や壊れた傘がそのままになっていないか  
(置き傘以外の傘はできるだけ早めに持ち帰らせるとよいでしょう。壊れたまま放置してあると危険が伴います。)
- 4 掃除道具や雑巾はきれいに整頓してあるか  
(雑巾は洗濯ばさみ等で留めて干します。干し方の例を分かりやすく掲示すると、子どもはどのように干せばよいのか、次に使う際どれを使えばよいか分かり、自主的に動けます。)



## その他

- 1 時計は正確に動いているか
- 2 締め切りの過ぎた古い掲示物がそのまま残っていないか
- 3 床に落とし物やごみがないか  
(そっと拾ってゴミ箱に入れる先生の後ろ姿を、子どもたちは見えています。)
- 4 壁や掲示物等に落書きがないか  
掲示物(や配付物)にプライバシーや人権の配慮がなされているか
- 5 子どもや保護者の出入りする場所に、個人情報の分かる物が置かれていないか  
(教師用の机の中も同様に気を付けます。カッターナイフなどの危険な物、集金等も同じように注意しましょう。)



## アンテナを張る



教師自身がアンテナを張り、子どものやる気につながるように、みんなで使う物を片付けたり整頓したりしている子どもをしっかりほめ、時には一緒に整頓しましょう。

また、いろいろな価値観や生活環境の違い等、人によって、いろいろな見方、チェックポイントがあることでしょう。教師としての環境整備の仕方、見習うとよい学級環境づくり等、先輩の教室も数多く見てみると勉強になりますよ。

## メンターは、

放課後の教室や靴箱などを一緒に見ながら、普段から気を付けて見ておく環境整備のポイントや、掲示の意図を伝えましょう。

模擬授業で若手教員の教室に入るときは、若手教員なりに工夫しているところをしっかりほめて意欲を引き出すことも、先輩だからこそできる役割です。



メンター

## 4 児童理解

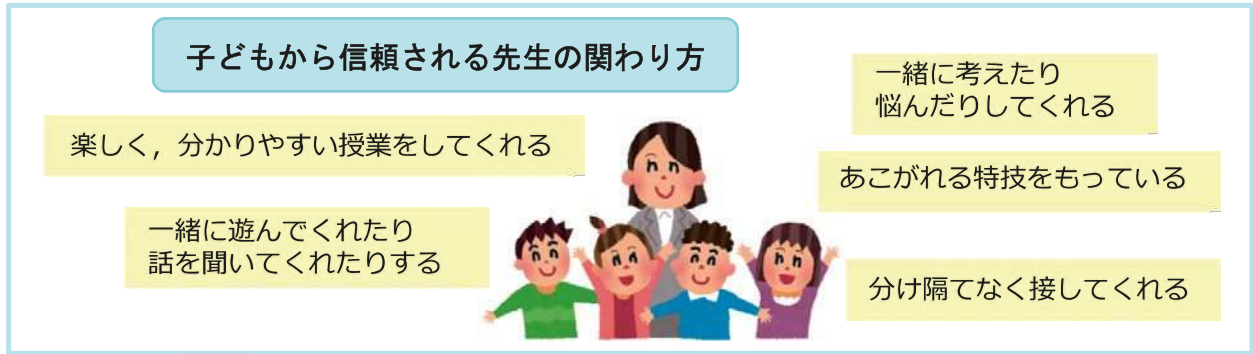
子どもとの関わりがうまくいっていないように感じるのですが、どうしたらよいでしょうか。



若手教員

### まずしっかり関わろう。そして一人一人をよく見よう！

まず自分が積極的に子どもたちに関わることはもちろん、同じ学年団の先生や養護教諭の先生、管理職の先生にも相談して、情報を収集したり、アドバイスをもらったりしましょう。学校全体の支援を考えていくことが必要な場合もあります。



### 児童理解を促す視点

「先生！」といつも話しかけてくれる子どもたちばかりと関わっていませんか。教室の中で先生から声をかけてもらえるのをじっと待っている子どもたちもいます。どの子にも心が配れる「みんなの先生」を心がけましょう。

①まず子どもの行動を見る。人間関係を観察する。



②さらにその子どもの心情を読み取り、予想される次の行動や子ども同士のつながりを考える。



③その子に応じて、行動の過程をほめる。



④安心して過ごせる雰囲気・関係づくりを心がける。

子どもの心をつかむのが上手な先生は、児童理解力のある先生で、子どものことを本当によく見えています。そのような先輩の先生の、子どもを見るポイントを聞いてみましょう。

### ホッと一息…

放課後お茶を入れているとき、思いがけず担任している子どもの情報を得ることがあります。担任が見ていなかった場面のことも聞けることがあります。コーヒー等を手にしているときは、周りの先生も少し余裕があるときかもしれません。雑談の中で、教職員同士のチームとしてのつながりが強くなることもあります。



また、自分のメンタルヘルスやストレス解消法をもつ等、心のゆとりが必要です。

心にゆとりをもたせるために、コーヒーブレイクはどうですか。いいアイデアが浮かんでくるかもしれませんね。

メンターは、

若手教員は子どもたちのことが大体分かってきても、実際にどう関わっていけばいいのか悩むことがあります。メンターはその先生自身の人間的魅力なども伝え、先生自身のよさに気付かせることも必要かもしれません。



メンター

# 5 特別支援教育の視点を生かす

授業中立ち歩いたり、友達にちょっかいを出したりします。



若手教員

## 特別な配慮が必要な「個」への支援を全体にも生かそう

気になる子どもの行動や言動をよく観察して適切な実態把握をし、背景に応じて予想される困難に対する手立てが必要です。「子どもが何に困っているか」という困り感に寄り添えたとき、特別支援教育の視点でアプローチしたことが、実は全体の指導に対しても大きく役立つことがあります。

### 行動よりも背景の見取り

気持ちがのらないと何もしない    かたまって動けない

興奮してパニックになる    手足が出る    こだわりが強い    教室から出て行く    行動

<背景として考えられることの例>

- ・ 苦手な教科がある。・ 課題の量が多すぎたり少なすぎたりする。
- ・ 導入でつまずく。(めあてが理解できていない。手順が分からない。教師の説明や指示が分からないまま、授業が始まっている。)
- ・ 集団の中で多くの人と関わって行動することが苦手だったり、不安だったりする。
- ・ 他に気になる物が貼ってあったり置いてあったりする。
- ・ 担任と一対一の関わりを求め、探しに来てくれるのを待っている。等



### 予想される困難と手立ての例

複数の要因が考えられ、ケースによって手立ても異なります。全てに共通するのは「報告・連絡・相談」です。

見通しがもてないと不安	1日の予定や授業の流れを絵(や写真)と言葉のセットで明示。不安になったらいつでも目で確認できるものを用意。
手順や指示が分からない	順番や約束を簡潔に示す。(短冊型のカードの活用等。)
考える道筋がもてない	ヒントカードを必要に応じて全員がもらえる方法と雰囲気づくり。 ※特別な支援を特別に目立たせることはしない。
課題が多い、あるいは終わった後することがない	適切な課題量の見極め。終了後の指示。
怒られることが多く自信がない	得意なことが発揮できる場面を意図的に設定してほめる。
自分の長所や成長に気付けない	自分で自分の成果に気付ける振り返りや評価の取組。
興奮してパニックになる	安全を確認後、パニックを助長する叱責や関わりはせず、落ち着いてから話す。
気持ちがのらない、困っている	選択できる方法を用意。手伝い等意図的に動いて行う活動を取り入れる。
こだわりが強い	場合によるが、ある程度こだわりにつき合ったり、逆にこだわりを生かした支援をしたりする。

### 個への支援が集団に生かされるよさの例

- ・ クラスのどの子どもも見通しがもて、手順や指示を理解できる。
- ・ 進んで動ける子どもが増え、学級全体の手伝いもでき出す。
- ・ 情緒面だけでなく、学習面でのつまずきがある子どもにも通じる支援になる。
- ・ 教師の支援の姿を見て、他の子どもも友達同士助け合うようになり、互いに受容し合える。
- ・ かってって刺激になるような教師の大声での叱責や関わりが減り、子どもも教師も温かい気持ちで過ごせるようになる。

#### メンターは、

若手教員が気になる子どもに対して積極的に関わり、よさを認めようとする姿をほめます。また、生徒指導や特別支援教育コーディネーターの職員にアドバイスをもらえるよう、サポート体制を整えてフォローします。



メンター

### 手立てのヒント2つ

行事の事前指導では、当日の流れを隙間なく時系列で視覚的に説明し、予想される不安の対処法を伝えます。

3つの【間】を明確に。【時間】では、はじめと終わりを示し、終わったら何をするか具体例を挙げたり選択させたりします。【空間】の認知では、どこに何を配置するか環境整備を意識します。【人間関係】において、適切な距離感や、相手の気持ちや行動の意味を絵に描いて伝える等の方法が考えられます。

## 6 集団づくり

クラスの仲間として、協力し合う関係が薄い気がします。



若手教員

### 集団の中で認め、自信をもたせ、「自己有用感」を育む

「ほめる」ことでの成長は大いにありますが、「認める」ことで生まれる「自己有用感（他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚）」が高い子どもは、自分を肯定的に捉え、所属する集団の中で望ましい行動を取ろうとします。

#### 自己有用感の高い子どもの思い

先生やおうちの方は話を聞いてくれたり、話しかけてくれたりするよ。

もっと勉強を頑張りたい。  
〇〇にチャレンジしてみたいな。



クラスの先生や友達の役に立ちたいな。

小さい学年の子のお世話を  
してあげたいな。

自分にはこんないいところがある  
んだ。

### 集団の中で自信をもたせる場の工夫

一人一人の活躍の場を与え、  
見守り、達成感を味わわせる

- ・学習の中で
- ・遊びの中で
- ・係活動や当番活動の中で



学級の友達やみんなのために  
仕事をし、役に立ったという  
実感をもたせる

互いのよさに気付ける場や  
人間関係づくりを支援する

- ・行事を通した学級での取組
- ・グループやペアでの活動
- ・全員で遊ぶ機会を設ける



協力し、  
互いに高め合うためには注意  
もし合える

#### メンターは、

学年活動等で見つけた他の学級の子どものよさや集団としての成長を若手教員に伝えます。そうすることで、若手教員が自分の学級の成長に気付いて自信をもったり、他の学級のよさに気付くための視点をもったりすることができるようになります。また、集団づくりの中で、いじめを生じさせない風土づくり、人権意識を高める取組へも、次第に意識を向けられるよう、活動を価値付ける助言をします。



メンター

### 自己有用感を高める手立て

※よりよい集団づくりには「量」だけでなく、「質」の高まりが大切で、教師の見取りと価値付けが必要です。

#### ビー玉貯金の意味

子どもたちと決めた目標が達成されたり、子どもたちが約束を守ったりしたときに、瓶にビー玉を入れて貯めていきます。成果が目に見えて分かることで、達成状況を実感できます。

ビー玉が増えるとき、教師がどのような価値付けをして称揚するかが鍵になります。瓶がいっぱいになったら、お楽しみ会を開く等、目標を設定するとやる気も高まります。

#### 効果の高まる よいこと見つけ

帰りの会等で、見つけた友達のよさを発表します。よいことをした子どもだけでなく、それに気付けた周りの子どもも称揚することで、効果がさらに高まります。

また、児童の見方が広がるよう、教員が率先してよいところを見つけ、認められる子どもが偏らないようにすることも大切です。

#### 内容の充実した木

よかったこと等を花びらや葉の形をした紙に書き、壁面に画用紙等で作った木の幹の周りに貼っていきます。達成すると花が咲いたり木が茂ったりしたように見えるので、満足感が高まります。

まず、自分の頑張りに気付いてもらったことが励みになります。数が増えることも大事ですが、内容はどうか見極め、質を高めていくことが大切です。

# 7 生徒指導

問題行動の見られる子どもには、どのように接したらいいですか。



若手教員

## 毎日の関わりが生徒指導。全ての児童生徒を対象に

「生徒指導」は何か問題が起きたときにだけするのではなく、「ふだんから、当たり前のように行っている児童生徒への働きかけのほとんど」であり、全ての児童生徒を対象として、全教職員で関わるものです。

### 1 次的支援(全ての子どもに、日常的に)

登下校時や授業の中で...

おはよう。昨日の熱は下がった？  
もう大丈夫かな。

背筋がピンと伸びて、  
いい姿勢だね！

この子にとってよりよい  
学びの環境は何かな。



特別支援教育・教育相談の場面で...

特別活動・キャリア教育等の場面で...

地域の方との交流会で会の進め方や役割を相談しよう。

学校でいろいろな仕事を体験する  
ワークショップを計画しよう。

最近表情が少し暗いな。  
ちょっと声をかけてみよう。

### 居場所と絆

「子ども」がつくる「絆」へ

授業の中で関わり合う場面を意図的に設定する

適切な課題を与える

VS 仲良し集団

思いやりのある学級の土壌をつくる

「教師」がつくる「居場所」

どの子にも心の安らげる居場所をつくることは教師の使命とも言えます。

子どもの自発的な思いや行動があって、初めて絆がつけられます。絆づくりのための取組が本当に日常の場面で子どもの行動に表れているか見極めることが大切です。

メンターは、

各学校で示している「生徒指導方針」についての背景や具体的な意味を助言することで、若手教員が指導や支援の意味をより深く理解することができ、子どもへどんな声かけをしたらよいかを考えるヒントになります。



メンター

### 2 次的支援(配慮を要する一部の子どもに)

※迅速な報告・連絡・相談が重要です。  
※問題の状況を把握し、問題が大きくなって他の子どもたちの成長への妨げにならないような支援を行っていきます。

ケース会や  
生徒指導部会等  
で話し合います。

### 3 次的支援(特定の子どもに)

※「チーム学校」として、また時には学校の枠を超えて支援体制を整え、関係機関との連携を図り、様々な場面での支援を行っていきます。

### ちょっとした隙

年度初めに示した「席替えのルール」等は、安易に子どもたちの意見に流されて変更するのではなく、毅然とした態度でルールを守り続けることが大切です。

子どもたちの主体性や意見はもちろん尊重しますが、取り入れるべきところとぶれない態度で臨むべきところの線引きは必要です。特にクラス間でルールの差が出ないように、一貫した態度で指導します。そうした隙が大きなほころびとなることがあります。

## 8 保護者との連携

保護者に伝えにくいことを伝えるには、  
どうしたらいいですか。



若手教員

### 子どもを想う気持ちは共通のはず。そこからスタートを！

毎日の児童への丁寧な関わり方、日頃の保護者との信頼関係が、いざという時に大きな支えになります。誠意をもって、真摯な対応を行うために以下の点に気を付けてみましょう。

#### 保護者と良好な関係を築くために

##### ① 毎日の「子どもたちの姿」で学級の様子が伝わる。

学校で楽しかったことやうれしかったことがあると、子どもは自然と元気に「ただいま！」と言って帰り、保護者はその姿に学校への安心感を感じるかもしれません。逆に暗い表情で、服の汚れや体の傷があると不安になるでしょう。保護者にとって気になることはすぐに連絡（電話、連絡帳等）をし、どのような指導をしたか誠意をもって伝えます。我が子のことをきちんと見てくれているという安心感が信頼関係にもつながります。記録を残し、学年団等への報告・連絡・相談等に生かします。

##### ② 通信、授業参観、学級懇談会等で伝える。

定期的な授業参観や、各種発表会で頑張る我が子の姿は、保護者に子どもの成長を感じさせるとともに、日々の学校生活への安心感を与えます。毎日の授業で子どもたちの学力を伸ばし、規律ある集団生活を送れるよう取り組んだ姿が、授業参観の日も自然と表れるものです。学級懇談会では、学校での様子を伝えるとともに、保護者の話にも真摯に耳を傾けようとする姿を示すことで、よりよい関係づくりを進めていきます。学級通信で伝えることもできます。

#### 伝える手段

#### 迷った時は…

連絡帳か電話か…と伝える手段を迷ったら、直接話をしたり、顔を合わせたりする方法を選びましょう。どの方法で伝えるにしても、伝えにくいことは必ず学年主任や先輩の先生に相談します。伝える内容だけでなく、伝え方、時間やタイミング等も確認しておきましょう。

#### メンターは、

若手教員から相談があったときは、客観的な事実を把握しつつ、若手教員の感じている不安も鑑み、チームとなって解決できることを伝えます。電話や家庭訪問のポイントを伝えた後、具体的な言葉を一緒に考え、若手教員が保護者の思いや自身の考えを整理できるようにします。



メンター

#### 心をこめた連絡帳

普段からよいことこそ、伝えておくことが大切です。毎日チェックすることはもちろん、子どもの字からも様子が分かることもあります。

「いつもお世話になっております。」の一言から書き始め、たとえ本人の不注意による小さなけがでも「ご心配をおかけして申し訳ありません。」と書き添えることで、その後の関係がずいぶん変わってくる場合があります。

#### 丁寧な電話対応

伝えにくいことだけを伝えるのではなく、できれば子どもの頑張っていた姿も具体的に伝え、保護者を責めたり落ち込ませたりして終わらないようにしましょう。電話の後の親子関係、明日からの保護者と学校との関係も考えて内容を整理して伝えます。電話では、相手の表情や状況が見えない分、時間やタイミングには十分気を付けましょう。



#### 家庭訪問

年度初めの家庭訪問は、子どもの家庭での様子や保護者の願いを聞くとともに、保護者との良好な関係を築く第一歩です。

難しい問題や急な対応のための家庭訪問では、教員が一人で訪問することはまずないと考え、

周りの先生方に相談し、協力体制を作ってから複数の教員で臨みましょう。



# 3

## 学校経営上の学級経営

### 1 目標の設定と計画

学校教育目標と学級目標がうまくつながっているか、分かりません。



若手教員

#### 学校教育目標や児童の願いのもとに方向付けを

学級目標を考える際は必ず学校教育目標や学年目標との関連を図り、学校全体で子どもたちを育てるという意識で、共通理解のもとに同じ方向(=目標)に向かって育てていきます。

#### 学校全体と学級のつながりを考える

学校全体の教育方針と学級経営の方向性のつながりを考える際、学級経営案の考え方が役立ちます。学級経営案の様式や内容は、各学校で異なっていたり、他の書式に置き換えて別に考える機会を設けていたりする場合もあるでしょう。学級経営の方向性を考える過程で、学校教育目標から見た学級経営や学年間でのつながり、中学校区での連携も視野に入れ、目指す姿を考えます。

##### <学級経営案の内容項目例>

- 1 学校教育目標
- 2 学年目標
- 3 学級の実態
- 4 学級目標
- 5 学級経営の方針や取組の重点
- 6 実践後の反省  
(途中経過、年度末等)



基本となるルールや指導方法、指導上の留意点等共通理解し、職員全員で共通実践できるような具体的な取組があることが大切です。

学校教育目標「心身のたくましい成長と、目標に向かってともに学び合う子の育成」等

◎目指す学校像：学校や地域の実態等を踏まえ、目指す学校の姿

◎目指す子ども像：どのような子どもを育てたいか目指す姿

学校や  
地域  
の実態

学年目標「協力」等

◎学年の実態や発達段階を踏まえ、その学年で目指す子どもの姿

学年の  
実態

学級目標「助け合うなかよし3C」等

◎学級経営の目標や目指す学級の子どもの姿

学年で  
の取組

学級の実態

具体的な取組

共通の  
手立て  
や取組

#### 客観的な見方・考え方

定期的にある教育相談や、Q-U等のアセスメントシートへの取組等、学校全体とする取組の際に学級経営に生かせるポイントが見つかることがあります。自分の主観的な見方だけでなく、客観的な視点を参考にしましょう。

#### メンターは、

学校教育目標や学年目標とのつながりをできるだけ具体的に伝え、「学級経営の目標」を設定できるように、助言しましょう。次の指導に生かせるよう、適切で効果的なタイミングを見計らって、年度当初に考えた学級経営の方向性を振り返らせることで、若手教員は新たな学級経営の手立てを考えることができるでしょう。

また、学校全体を俯瞰して見る見方は、学校内で自分が果たすべき役割や、今後果たせそうな役割を考える視点につながります。



メンター



## 2 PDCAサイクルによる目標の修正

学級目標の話をしていてもあまり子どもの反応がありません。



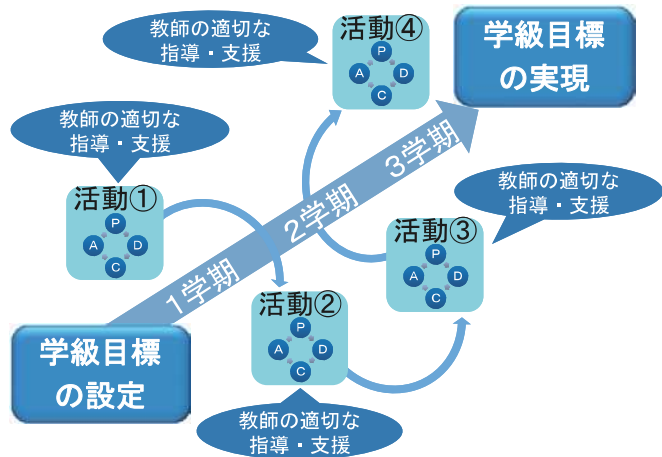
若手教員

### 目標達成というゴールに向けた軌道修正を！

学級目標は、教師や友達との関わりの中で互いに認め合い助け合って成長するためのゴールです。迷わずゴールにたどり着けるように必要な手立てを加え、活動の結果によって軌道修正を図ることが不可欠で、時期やタイミングをねらった教師のしかけが必要です。

#### 学級目標を軸とした学級経営

学級が集団として一つのチームになるためには、協力して壁を乗り越える経験が必要で、協力したからこそ成し遂げることができたという達成感が次の活動への意欲になり、子ども同士の絆を強くすることができます。



#### Plan

- ◎目指す学級のイメージづくり  
(教師が願いを語り、子どもの思いを膨らませる。)
- ◎実態把握  
(前担任からの引き継ぎと、先入観に捉われない子どもに対する見方の両方が必要。)
- ◎必要な手立てを考える
  - ・全員がその目標に向かって努力できる手立て
  - ・決して一人ではできない、協力し、集団としての力が発揮できる手立て
  - ・目標の先に具体的なゴールの見える手立て
  - ・それぞれの活動に、具体的な行動目標があり、それを達成できる手立て
  - ・一人一人の取組が学級目標達成に貢献できる個人レベルの取組

#### Action

- ◎次の活動への事前指導に生かす  
(集団としてのよりよい成長に向けて、さらに伸ばしたい点や取組方法の改善点を、具体的にどこに位置付けるか考える。反映できそうなポイントを決めて実行する。)

#### メンターは、

まず若手教員が実践をどう振り返り、次の活動へどう生かしているかを見極めます。ただ目の前の行事をこなすことに一生懸命になりがちです。本人が気付いていない集団や個の成長を伝えた後、毎日の生活の中や次の活動の中でできそうな、さらに伸ばせる力や改善できる取組方法を一緒に考え、助言します。

メンター

#### Do

- ◎日々の生活の中で生かす  
(係活動や当番活動でのがんばりカードや、集団遊びへの取組を学級目標とつなげる。)
- ◎行事の中で生かす  
(運動会、学習発表会等で行動目標を設定し、個人レベル・集団レベルの手立てを実行する。)  
(「掲示の力(目に見える努力の足跡)」を生かす。ゴールへの見通しがもて、自分や友達の頑張りが見えるように具体的に分かる、自信につながる。)

#### Check

- ◎活動しっ放しではなく、必ず振り返り、達成感を共有する
- ◎集団としての成長に気付かせる
  - ①個人レベルで自分や友達の頑張りや努力を振り返る。
  - ②学級全体で共有する。(発表を板書や掲示にまとめ、視覚的に認知させる。)
  - ③具体的な努力の姿を称揚し、培った力が必ず次の活動への自信や原動力につながるよう励ましの言葉を伝える。

### 3 同僚の先生からの学び方

どんな指導をしたら先輩のような  
はじめのある学級になるでしょうか。



若手教員

#### 同僚の先生の学級経営を学び、自分の引き出しを増やそう！

仕事に慣れたら、少しずつ他の学年の先生の動きや学校全体の動き、地域の中での学校の姿を見たり考えたりしていきましょう。他の学年の先生の指導は、今の学年と関係ないように見えても、実はどの学年にも共通することだったり、地域の中での学校の役割を意識するだけで、地域との交流学習への教師自身の取組方が変わってきたりします。

#### 日常OJTでの学び方

##### まず相談！

- ・気になることは まず相談する。  
→一人で抱え込まず、一人で判断しないで  
チームで指導に当たる。

##### まねることは学ぶこと！

- ・他の学級での取組について、具体的なやり  
方や指導のポイントを尋ねる。  
→自分の学級でもできそうな指導方法をま  
ずやってみるのも大事。

##### 「放課後探検」は学級経営の極意！

- ・戸締まりや、模擬授業で他の教室に入る際、  
掲示の仕方、学級目標への取組、環境整備  
の仕方等を観察し、質問する。  
→子どもの下校後に学べる学級経営もある。  
参考にしたいことについて詳しく聞き、  
取り入れたり、自分の学級の子どもたち  
に置き換えて工夫したりする。

##### メンターは、

若手教員と一緒に校内を歩きながら、自分の  
学級や他の学級での取組の例を示し、  
指導のねらいやポイントを具体的に説  
明しましょう。



メンター

#### 全体OJTでの学び方 (児童理解の研修等)

##### 課題意識をもって学ぶ！

- ・児童理解や生徒指導、特別支援教育に関す  
る校内研修等で、学校全体あるいは他の学  
級の子どもの様子と、自分の学級の子ども  
の様子を比較しながら聞く。  
→他の学級の事例の中からもヒントになる  
取組がないか、課題意識をもって聞く。  
全く違うように思えることの中から共通  
点を見つけられることがある。

##### 積極的に学ぶ！

- ・できれば前の方で聞く。  
→積極的に学ぶ先輩の姿を見習う。初任者  
のときだけでなく、それ以降も積極的に  
学べる先生は、教室でも輝いているはず。

##### メンターは、

熱意あふれる若手教員の成長は本当に頼もし  
いものです。校内の先輩の姿から学んだ指導法  
が、若手教員の授業や学級経営に受け継がれて  
いることでしょう。

大変だと思われる仕事もありますが、  
教育に対する夢や、教育に携わる素晴  
らしさも語り合しましょう。



メンター

#### 自主OJTでの学び方

##### 校外研修での学びにつなげて考える

- ・初任研や5年研等、校外で発表する機会があ  
るときは、できるだけ校内でも聞いてもらえ  
る機会をもつ。

##### ＜平成30年度の例＞

- 初任研：2学期に公開授業，3学期に実践発表
- 2年目研：指導案作成／指導教諭の公開授業参観
- 3年目研：3学期に授業の動画で実践発表
- 5年研：夏期休業中に学級経営の工夫と実際を  
発表

##### メンターは、

若手教員が校外で発表する機会があるとき  
は、メンターが率先して校内での発表の機会  
を設けて同僚に参加してもらう等、若手教員  
の成長の機会を設定しましょう。ただ発表し  
て終わるのではなく、発表を聞いた感想を紙  
に書いてもらったり、後で個別に先輩に助言  
をもらいに行ったりする等、具体的なアドバ  
イスのもらい方を伝えると、若手教員  
の自信になり、校外での発表での学  
びも倍増することでしょう。



メンター

# 付録 「学級経営(小学校)」チェックシート

1年間学級経営に取り組む中で、「岡山市教員等育成指標」で示されている「児童生徒理解力」「生徒指導力」「マネジメント力」「人間関係力」等をPDC Aサイクルにより振り返り、必ず次に生かすことが大切です。客観的な振り返りのポイントを以下にまとめていますので、メンター、若手教員の双方でご活用ください。

※チェックシートの視点は「岡山市教員等育成指標」を基に作成しています。

- ・岡山市教育研究研修センターの研修で行う、若手教員自己マネジメントシート（10段階評定）も同様です。

① 若手教員は、チェックシートの項目に沿って自己評価する。

② 若手教員とメンターで、若手教員の自己評価を見ながら、全体を振り返る。

③ 重点的に取り組みたい項目を選び、目標達成に向けた取組方法を考える。  
メンターは若手教員が考えた取組に対して、アドバイスをする。

OJT取組シートの例です。EXCELファイル形式で校務支援システム（C4th）書庫に掲載しています。上記のチェックシートを通してできた次の目標を明確にするために、ご活用ください。

The image shows a screenshot of the 'OJT取組シート' (OJT Activity Sheet) with a callout box highlighting sections 2 and 3. The sheet is divided into four main sections:

1. 現在の課題 (Current Issues)
2. 取組目標 (Activity Objectives)
3. 目標達成に向けた取組方法 (Activity Methods for Goal Achievement)
4. 取組計画 (Activity Plan)

Section 4 includes a table with the following columns: 取組予定 (Activity Plan), 体制 (System), 内容 (Content), and 備考 (Remarks). The table has 6 rows for planning.

The callout box contains the following text:

**2 取組目標**

**3 目標達成に向けた取組方法**

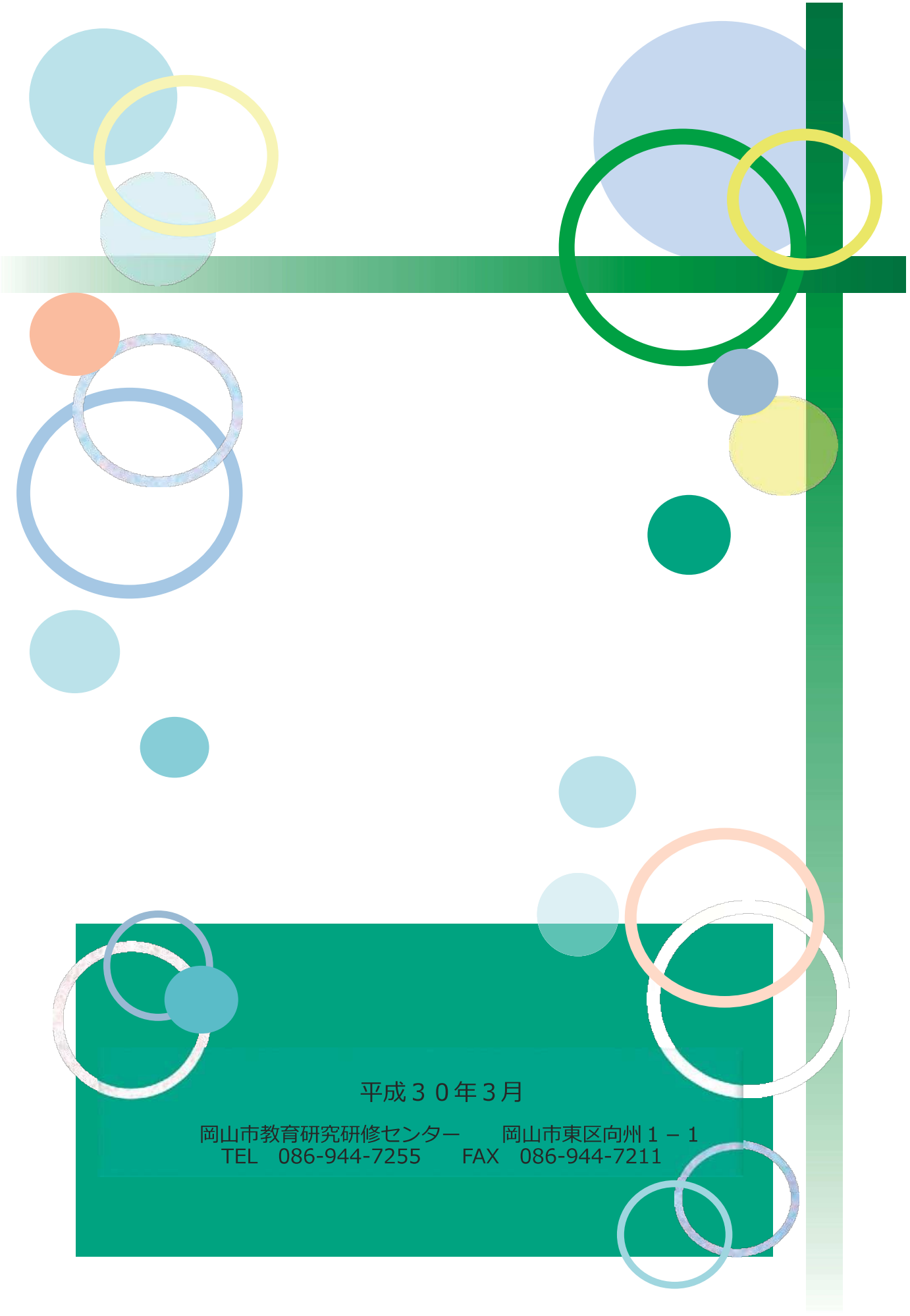
## 主な参考文献

- 文部科学省 国立教育政策研究所 「生徒指導リーフ『絆づくりと居場所づくり』」 平成24年2月  
文部科学省 国立教育政策研究所 「生徒指導リーフ『自尊心』?それとも、『自己有用感』?」 平成27年3月  
文部科学省「生徒指導提要」 平成22年3月  
北九州市教育委員会 「Teacher's Guide 教師のしおり」 平成28年3月  
和歌山県教育委員会 「みんな生き生き！学級集団づくり」 平成28年3月  
岡山県総合教育センター「通常学級の特別支援教育ガイド通常学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり」平成27年3月  
仙台市教育委員会 「学級担任のための生徒指導ハンドブック」 平成27年3月  
滋賀県総合教育センター 「滋賀県版学級経営スタートブック（小学校編）」 平成26年  
宮城県大河原教育事務所 「校内研究の充実3～『集団づくり』と『授業づくり』7つの視点～」 平成26年3月  
高知県教育委員会 「『夢』・『志』を育む学級づくり（小学校編）」 平成25年3月  
福岡市教育センター 「学級経営を充実させるために」 平成23年4月

	児童生徒理解力・生徒指導力	チェック
①	児童の心情や行動を理解している。	
②	特別支援教育について理解している。	
③	学級目標を設定し、実現への努力をしている。	
④	教室環境を整え、効果的な配置や掲示をしている。	
⑤	学級の実態に応じた集団づくりをしている。	
⑥	保護者とのよりよい関係づくりに努めている。	
⑦	地域との連携を図る取組をしている。	
⑧	問題行動があった場合は迅速な報告・連絡・相談をしている。	
⑨	いじめや不登校への対応をしている。	
⑩	年間を見通した教育計画を実践している。	

	マネジメント力・人間関係力等	チェック
①	教師としての使命感を備えている。	
②	自己研鑽に努めている。	
③	新しい教育課題への関心をもっている。	
④	学年団等校内の教職員との連携を図っている。	
⑤	適切に事務処理を行っている。	
⑥	危機管理を徹底し、安全に配慮している。	
⑦	校務分掌を遂行し、工夫や改善をしている。	
⑧	メンターやミドルリーダーの自覚をもっている。	
⑨	謙虚な姿勢で学んでいる。	
⑩	児童や同僚との人間関係づくりに努めている。	
⑪	人権について正しく理解し、人権感覚を高める手立てをしている。	
⑫	自分のメンタルヘルス対策や健康管理を行っている。	

※「岡山市教員等育成指標」の「教諭版」， F児童生徒理解力， G生徒指導力， Hマネジメント力， I人間関係力等に対応しています。



平成30年3月

岡山市教育研究研修センター 岡山市東区向州1-1  
TEL 086-944-7255 FAX 086-944-7211